

平成 28 年度自己点検・評価について

自己評価総括委員会委員長（学長）

西 尾 一 政

1. 平成 28 年度の自己点検・評価について

平成 28 年度の自己点検・評価活動は、自己評価総括委員会で協議の上、教学自己評価委員会では「ガイダンス制度の実質化（休退学予防）」と「3つのポリシーを踏まえた教育の取り組み」を重点点検項目として点検・評価を実施しました。また、管理運営自己評価委員会では「業務の把握と改善（業務の可視化）」を重点点検項目として点検・評価を実施しました。

2. 評価結果について

(1) ガイダンス制度の実質化（休退学予防）

今回の点検評価活動は、休退学予防の観点から、学生部長及び教務部長等から構成されるプロジェクトチームにより、ガイダンス制度の実質化を目的として、点検・評価を行いました。

授業出席調査による出席不良者及び低単位者に対して、ガイダンス担当（担任制）教員が個別指導を実施し、また各学科等の教員間での情報共有の体制は構築されており、評価します。

なお、大学全体（教職員間）として情報共有を図るため、個別指導確認、授業出席調査方法の点検などの「見える化」をキーワードに組織的な対応を行いました。

また、学生を取り巻く状況は変化しますので、毎年、点検・評価を実施し、今後も改善に取り組む必要があると思います。

(2) 3つのポリシーを踏まえた教育の取り組み

本年度に、新たなキーワード（主体性・協働して学ぶ態度など）に3つのポリシー（学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）の見直し実施しました。今回の点検・評価活動は、この新たな3つのポリシーを踏まえた教育の取り組みについて、教務部長等の学内教員と地方自治体職員や地域企業関係の外部有識者により、点検・評価を行いました。

講義を中心とした授業のあり方の多様化を推進するため、柔軟な授業期間、COC 事業における地域志向科目、能動的な学習（アクティブラーニング）の明確化などの取り組みについては評価します。

なお、OB就職先アンケートで、本学に求める教育内容の一番としてアクティブラーニングであることを考えると、さらなるアクティブラーニングを推進し、教育改善を求めます。

また、外部有識者からは、地域課題のためのアクティブラーニングが期待されていることから、この取り組みについて、引き続き、実施することを期待します。

(3) 業務の把握と改善（業務の可視化）

今回の点検・評価活動では、各課・室で業務内容実態調査を実施し、業務内容と担当者の把握を行うとともに、必要な業務の精査、事務職員の業務量のバランスや担当の適正化を図り、事務

の効率化と改善に繋げることを目的として実施しました。

点検・評価の結果、大学全体での業務量バランスや、担当の適正化まで踏み込まなかったものの、事務職員各自が、所属部署のみならず他部署の事務分掌についても把握、確認ができたことは、点検・評価活動に繋がったものと評価します。

また、今回の点検・評価活動において、各課・室長から様々な所見が出ましたが、文部科学省の政策への対応や、競争的補助金の申請、学生の休退学予防の対応など、業務量は増加、煩雑化する一方で、人員は限られており、「事務分掌や業務分担の見直し（効率化）」、「業務の改善工夫」、「他部署との連携強化」、「会議等のスリム化」などが当面の改善策であるとの結論に達しました。

なお、将来を見据えての人材育成に対する意見も出されており、事務職員の資質向上も必須の課題です。

社会的に労働環境の改善（超過勤務問題等）も謳われている中、各課・室長がリーダーシップを発揮し、他部署との協調も図りながら、引き続き業務の改善に取り組むことが必要です。

以上